

医療被ばくに関する説明書 X線CT検査

<X線CT検査について>

X線を使用して身体の断面像を撮影し、病気の診断を行う検査です。

検査時間は撮像部位や病気の種類によって異なります。検査室への入室から退室までは約10～20分程度ですが、実際に放射線を照射している時間は数十秒です。

病状に応じて造影剤を使用する場合や、追加の検査あるいは繰り返し検査をする場合があります。

<検査の必要性について>

X線CT検査では放射線を用いるため放射線による被ばくを伴います。

従って、検査の必要性が被ばくのリスクを上回ると考えられる場合のみ検査を行います。

放射線のことが心配で検査を受けなかったために、病気や怪我の発見が遅れたり、治療のタイミングを逃すことは避けなければなりません。

放射線のことが心配な時は、担当医師とよく相談し納得したうえで検査を受けてください。

<線量の最適化について>

当院では、法令や関連学会のガイドラインをもとに最適な条件で検査を行い、放射線による被ばくを必要最小限にすることを実践しています。

<被ばく量（放射線の量）について>

通常のX線CT検査により受ける放射線の量は5～30ミリシーベルトですが、検査する部位や範囲、方法で異なります。一般的には、検査で受けた放射線の量が100ミリシーベルト未満であれば、放射線検査を受けた人も受けなかった人も発がん率や遺伝的な影響の差はないと言われています。当院のX線CT検査で100ミリシーベルトを超える被ばくをすることはありません。また、定期的にX線CT検査をお勧めすることもあります。治療効果や病変の経過を観察することで最善の治療につなげるためです。複数回のX線CT検査を受けた場合でも、人体には放射線による影響に対する修復機能がありますので、放射線の影響が蓄積するわけではありません。

小児においては小児専用の撮像条件を用い、より一層の被ばく低減に努めています。

<ご不明な点について>

放射線検査に伴う被ばく量や影響について、詳しい説明をご希望の場合は診療科までご連絡ください。